

1. 略歴

1982年3月	東京大学文学部国文学専修課程卒業
1985年3月	東京大学大学院人文科学研究科国語国文学専門課程修士課程修了
1987年3月	東京大学大学院人文科学研究科国語国文学専門課程博士課程中退
1987年4月	東京大学文学部助手
1990年4月	上智大学文学部専任講師
1995年4月	上智大学文学部助教授
1997年4月	東京大学大学院人文社会系研究科助教授
2007年4月	東京大学大学院人文社会系研究科准教授
2010年4月	東京大学大学院人文社会系研究科教授

2. 主な研究活動

a 専門分野

日本近代文学

b 研究課題

太宰治の文学の自意識過剰の饒舌体と呼ばれる文体に注目するところから出発、そのような文体が育まれてゆく必然性を近代文学史の展開に即して考察して行く中で、書き手の表現意識が「私小説」というわが国独自の表現形式を生み出してゆく機構にあらためて着目するに至った。いわゆる作家論の一環として太宰治の文学の特質を解明して行く方向と、日本近代文学における「自己」表現の歴史的変容を解明して行く方向とを、同時並行的におしすすめて行くことを現在の研究課題としている。

c 主要業績

(1) 著書

『自意識の昭和文学 現象としての「私」』(至文堂、1994年3月)。

『太宰治 弱さを演じるということ (ちくま新書367)』(筑摩書房、2002年10月)。

『近代小説の表現機構』(岩波書店、2012年3月)。

3. 主な社会活動

(1) 他機関での講義等

放送大学、早稲田大学、成城大学、上智大学、慶應義塾大学

(2) 学会

日本近代文学会理事、昭和文学会常任幹事、日本近代文学館評議員